

2021年2月16日

報道関係者各位

特別展「復興を支える地域の文化—3.11から10年」

2021年3月4日(木)～5月18日(火)

新型コロナウイルス感染症の予防のため、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園 10-1)では、特別展「復興を支える地域の文化—3.11から10年」を、2021年3月4日(木)から5月18日(火)まで開催します。

未曾有の被害をもたらした2011年の東日本大震災では、復興の原動力としての「地域文化」に大きな注目が寄せられました。

地域文化とは、その土地の自然に適合しながら形成された生活環境、その土地に人が住むことで蓄積されてきた歴史、そして、これらの生活環境や歴史の営みのなかで生み出されたくらしの総体であり、「地域で受け継がれてきた生活の記憶」ともいえます。また、地域文化は有形無形のさまざまな形で受け継がれ、地域に住む人びとの人生と結びつき、地域住民の豊かな人間性や創造性を育みます。このことから、地域文化は災害からの復興を支える存在になるのです。

しかしながら、日常のくらしのなかでは、地域文化の存在は当たり前のものであり、ほとんど意識されることがありません。むしろ変化が大きい現代社会のなかでは、容易に忘れ去られてしまう危機に常に直面しています。

そこで本展示では、東日本大震災から10年が経つ今、災害からの復興を支える地域文化をめぐる活動についてあらためて振り返ります。そして、豊かな社会の礎となる地域文化の大切さとその継承について考えていきます。



展示の見どころ

■ 郷土芸能の持つ力

東日本大震災では、地域のアイデンティティとして郷土芸能の再開に向けて住民が結集し、復興の原動力となった事例が数多く報告されました。また、再開されたことで多くの来訪者が地域を訪れ、復興支援の機運が高まりました。こうした事例は「三陸沿岸は郷土芸能の宝庫」といわれることを具体的に示したものと見え、復興を支える地域文化の力強さを示したものと見えるでしょう。

東日本大震災から10年が経つ今、本展ではこれらの事例に注目し、地域と密接に結びついた郷土芸能の持つ力にせまりつつ、地域文化の可能性を探ります。

■ 地域文化の再発見

地域住民の日常生活において、地域文化の存在は当たり前のものであり、ほとんど意識されていません。しかし、災害で地域の存続に危機が生じると、その大切さにあらためて気づく傾向がみられます。

本展では、そうした様相を、東日本大震災でおこなった牡鹿半島での地域文化の再発見＝「復興キュレーション」と称した活動や中越地震後に新潟県十日町市の古文書ボランティアとおこなった共同活動を紹介し、災害を契機とした地域文化への気づきについて考えます。

■ 過去、現在、そして将来への災害の教訓を考える

災害が多発する日本列島には、被災したことを教訓とするためのさまざまな記録が残されています。しかし、これらの記録は年月が経つにつれ忘れ去られ、教訓としての役割が果たせなくなったものも数多くあります。

東日本大震災から10年が経つ今、災害への教訓となる記録を改めて見つめ直し、過去からの貴重なメッセージについて振り返ります。

また、今も受け継がれている教訓とともに、これから伝えようとしている教訓についても紹介します。

資料点数 約 440 点



カマガミサマ
(石巻市教育委員会 収蔵)

展示構成

プロローグ：津波の記憶

第1章：復興を後押しする地域文化の可能性——郷土芸能の持つ力

第2章：地域文化を再生する

第3章：災害を契機とした地域文化の再発見

第4章：災害に備えて

エピローグ：地域文化の継承——人と人をつなぐもの

関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんぱくホームページをご確認ください。

みんぱく研究公演

「阪神虎舞みんぱく公演」

会 場	国立民族学博物館 ※オンライン(ライブ配信)での開催となります。
日 時	3月6日(土) 13:20~15:00
出 演	阪神虎舞
座 談 会	「芸能を移植する——阪神虎舞の試み」
パネリスト	橋本裕之(大阪市立大学都市研究プラザ 特別研究員・坐摩神社権禰宜) 中川真(大阪市立大学都市研究プラザ 特任教授) 山本和馬(阪神虎舞) 金崎亘(大槌城山虎舞) 笹山政幸(被災文化遺産所在調査専門調査委員)
コーディネーター	日高真吾(国立民族学博物館 教授)
司 会	寺村裕史(国立民族学博物館 准教授)
参加方法	事前申込不要/参加無料
内 容	2018年11月に神戸で発足した阪神虎舞は、東日本大震災の被災地の芸能を他の地域に広め、災害の記憶の風化を食い止めることを一つの目的として結成されました。指導に当たったのは、岩手県大槌町の大槌城山虎舞です。本公演では、阪神虎舞による実演とともに、東日本大震災から10年の経過のなかで、東北と関西を結びつけた阪神虎舞結成の物語を紹介し、災害の記憶への向き合い方について参加者とともに考えます。



阪神虎舞の演舞
(写真提供 廣田神社)

「じゃんがら念仏踊りみんぱく公演」

会 場	国立民族学博物館 講堂 ※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。
日 時	5月8日(土) 13:30~16:15 (13:00 開場)
出 演	久之浜大久自安我楽念仏踊継承会
解 説	遠藤諭(久之浜大久自安我楽念仏踊継承会)
司 会	日高真吾(国立民族学博物館 教授)
定 員	160名(会場参加)、300名(オンライン参加)
参加方法	要事前申込 参加無料(会場参加の方は要展示観覧券)
内 容	福島県は東日本大震災、さらには福島第一原子力発電所の事故という大きな被害を受けました。そうしたなか、地域の郷土芸能で、供養の踊りでもあるじゃんがら念仏踊りの再開は、地域の人びとの大きな心の支えとなりました。本公演では、じゃんがら念仏踊りの披露のほか、震災から10年間の歩みについて、演者とともに語りあいます。



コロナ禍でのじゃんがら念仏踊り
(撮影 川村清志)

みんなく映画会

「願いと揺らぎ」

- 会場** 国立民族学博物館 講堂
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。
- 日時** 4月10日(土) 12:45~16:20 (12:15 開場)
- 解説司会** 我妻和樹(映画作家)
日高真吾(国立民族学博物館 教授)
- 定員** 160名(会場参加)、300名(オンライン参加)
- 参加方法** 要事前申込
参加無料(会場参加の方は要展示観覧券)
- 内容** 本作品は、東日本大震災からの復興を目指して再開した「春祈禱」をめぐる物語です。地域の力で再開を目指す若手青年団と支援を受け入れて再開を目指す壮年層との齟齬を描きながら、地域再生における住民の葛藤を映し出しております。本映画会では、災害からの復興の実情を参加者と共有し、住民をつなぐ地域文化の役割を考えます。



映画「願いと揺らぎ」の一場面

「明日に向かって曳け——石川県輪島市皆月山王祭の現在」

- 会場** 国立民族学博物館 講堂
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。
- 日時** 4月24日(土) 13:00~16:30 (12:30 開場)
- 解説司会** 川村清志(国立歴史民俗博物館 准教授)
日高真吾(国立民族学博物館 教授)
- 定員** 160名(会場参加)、300名(オンライン参加)
- 参加方法** 要事前申込
参加無料(会場参加の方は要展示観覧券)
- 内容** 本作品は、石川県輪島市皆月の山王祭に関わる青年会に焦点を当て、過疎化のなかで存続の危機に瀕する祭りの現在を焦点化したものです。本映画会では、そうした地域文化をどのように維持・継承していくのかという課題を参加者と共有するとともに、その解決手法を考えます。



映画「明日に向かって曳け」の一場面
映画「願いと揺らぎ」の一場面

みんなくゼミナール

第507回「牡鹿半島の民俗誌——復興キュレーション」

- 会場** 国立民族学博物館 セミナー室
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。
- 日時** 3月20日(土・祝) 13:30~15:00 (13:00 開場)
- 講師** 加藤幸治(武蔵野美術大学 教授)
日高真吾(国立民族学博物館 教授)
- 定員** 100名(会場参加)、300名(オンライン参加)
- 参加方法** 要事前申込／参加無料
- 内容** 震災から10年間の民俗調査と博物館活動を紹介します。自然の営み・復興の繰り返しの歴史・家族や隣人の思い出、三つの時間から描き出す牡鹿半島の民俗誌。キーワードは「津波」「クジラ」そして「ペンギン」です。



「津波」「クジラ」そして「ペンギン」

第 508 回「双葉町に就職して——学芸員の視点から」

会 場 国立民族学博物館 講堂
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。

日 時 4 月 17 日(土) 13:30~15:00 (13:00 開場)

講 師 星洋和(双葉町役場 教育総務課)
日高真吾(国立民族学博物館 教授)

定 員 160 名(会場参加)、300 名(オンライン参加)

参加方法 要事前申込／参加無料

内 容 双葉町の学芸員として働き始めて 1 年。双葉町における東日本大震災からの復興、あるいは福島第一原子力発電所の事故からの復興について、学芸員の視点からお話します。



両竹地区の諏訪神社境内に建つ津波記念碑(双葉町内、2020 年撮影)

第 509 回「郷土芸能の持つ力」

会 場 国立民族学博物館 講堂
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。

日 時 5 月 15 日(土) 13:30~15:00 (13:00 開場)

講 師 小谷竜介(東北歴史博物館 主任研究員)
日高真吾(国立民族学博物館 教授)

定 員 160 名(会場参加)、300 名(オンライン参加)

参加方法 要事前申込／参加無料

内 容 祭りや行事にて演じられる民俗芸能は、地域の人たちを結びつける力も持っています。それは東日本大震災のような大きな災害時に力を発揮します。どのようなものだったのか、事例をとおして紹介します。



2012 年、震災後最初の地域のお祭り(石巻市雄勝町立浜)

友の会講演会

「災害を後世に伝える——記録・供養・教訓」

日 時 3 月 6 日(土) 10:30~11:40 (10:00 開場)

講 師 林勲男(国立民族学博物館 教授)

聴講方法 オンライン(ライブ配信)での聴講
定員 100 名

参加方法 友の会会員限定／要事前申込先着順／参加無料
友の会ホームページ内、第 510 回友の会講演会受付フォームより予約。
<https://www.senri-f.or.jp/510tomo/>

お問い合わせ 国立民族学博物館友の会(千里文化財団)
06-6877-8893



50 年ごとに建てられる外所(とんところ)地震(1662 年)の供養碑(写真提供 林勲男)

内 容 大きな出来事は長く人びとの記憶に留まりますが、決して永遠のものではありません。災害を経験した人びとは、手記や絵図、石碑や写真などそれぞれの時代のさまざまな手段を用いて記録に残してきました。そこには出来事を後世に伝えるだけでなく、災害で亡くなった人を供養し、教訓を伝えることによって、将来の災害での被害や死者を少なくしたいという願いもうかがえます。本講演では、津波常襲地域の「津波碑」についてお話します。

みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう
研究者が展示や研究についてお話しします。

「江戸将軍家が愛用した十日町の越後縮——古文書の解読と光学撮影調査」

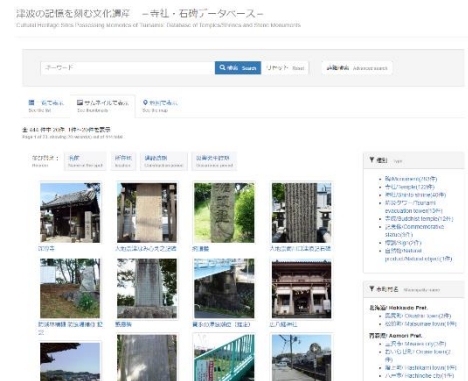
会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 4月4日(日) 14:30~15:15 (14:00 開場)
講師 高橋由美子(十日町市博物館 学芸員)
末森薫(国立民族学博物館 助教)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内容 中越地震で被災した土蔵から、屏風の包紙に転用された古文書が発見されました。十日町市古文書整理ボランティアはその解読を進め、幕末の江戸将軍家に越後縮が納められていたことを明らかにしました。しかし、中には読めない文字があり、光学撮影調査により解読を支援しました。



越後縮が江戸将軍家に納められたことを
実証した包紙文書

「寺社・石碑データベースの可能性」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 4月11日(日) 14:30~15:00 (14:00 開場)
講師 寺村裕史(国立民族学博物館 准教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内容 特別展示場では、タッチパネルモニターを使って「寺社・石碑データベース」を実際に操作してもらえるようになっています。本ウィークエンド・サロンは、その概要と、今後の災害に備える際にデータベースが果たすことのできる役割や可能性についてお話しします。



寺社・石碑データベースの1画面

シンポジウム

「多角的な視点から捉える地域の文化——博物館における研究の可視化・高度化」

会 場 国立民族学博物館 講堂
日 時 5月2日(日) 13:00~16:40
登壇者 小池淳一(国立歴史民俗博物館 教授)
 西村慎太郎(国文学研究資料館 准教授)
 木部暢子(国立国語研究所 教授)
 吉田文人(総合地球環境学研究所・東京大学大学院総合文化研究科 准教授)
 川村清志(国立歴史民俗博物館 准教授)
 劉建輝(国際日本文化研究センター 教授)
 渡辺浩一(国文学研究資料館 教授)
 日高真吾(国立民族学博物館 教授)

参加方法 要事前申込／参加無料
内 容 東日本大震災では、復興の原動力としての「地域文化」に大きな注目が寄せられました。本シンポジウムでは、第1部として、多角的な視点から地域文化を捉えた最先端の研究成果を報告します。また、第2部では、人間文化研究の最先端の成果をどのように可視化・高度化するのかを第1部の報告をもとに考えていきます。



ユニバーサルデザインの
展示案内システムの展示

開催概要

展覧会名 特別展「復興を支える地域の文化——3.11 から 10 年」
会 場 国立民族学博物館 特別展示館
会 期 2021年3月4日(木) ~5月18日(火)
開館時間 10:00~17:00(入館は 16:30 まで)
休 館 日 水曜日(ただし、5月5日は開館、翌6日は休館)
観 覧 料 一般 880円(600円) 大学生 450円(250円) 高校生以下 無料
 ※本館展示もご覧いただけます。

* ()内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)。

* 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。

主 催 国立民族学博物館
協 力 石巻市教育委員会、株式会社ベイエフエム、国文学研究資料館、千里文化財団、宮城県石巻市
後 援 朝日新聞社、京都新聞社、神戸新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

〈人間文化研究機構 博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業〉

実行委員長 日高真吾(国立民族学博物館 教授)

東海大学文学部史学科日本史学専攻卒業(1994年)。博士(文学)(東海大学2006年)。元興寺文化財研究所研究員を経て、現在、国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授。主な著書に『災害と文化財——ある文化財科学者の視点から』(千里文化財団、2015年)、『女乗物 その発生経緯と装飾性』(東海大学出版会、2008年)、編著書に『記憶をつなぐ——津波被害と文化遺産』(千里文化財団、2012年)、『博物館への挑戦——何がどこまでできたのか』(園田直子と共編 三好企画、2008年)がある。



実行委員

林勲男	国立民族学博物館 教授
寺村裕史	国立民族学博物館 准教授
末森薫	国立民族学博物館 助教
河村友佳子	国立民族学博物館 プロジェクト研究員
橋本沙知	国立民族学博物館 プロジェクト研究員

小谷竜介	東北歴史博物館 主任研究員
加藤幸治	武蔵野美術大学 教授
小池淳一	国立歴史民俗博物館 教授
川村清志	国立歴史民俗博物館 准教授
天野真志	国立歴史民俗博物館 特任准教授
木部暢子	国立国語研究所 教授
籠宮隆之	国立国語研究所 特任助教
渡辺浩一	国文学研究資料館 教授
西村慎太郎	国文学研究資料館 准教授
葉山茂	弘前大学 准教授
吉田丈人	総合地球環境学研究所 准教授

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報係
電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press

特別展「復興を支える地域の文化——3.11から10年」
広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】大阪府浪速区に伝えられる津波碑



【3】地域の復興を後押しする郷土芸能——鶴鳥神楽



【4】地域で伝えられてきた被災文化財の修復



【5】和歌山県白浜町富田に伝えられる津浪警告板



【6】カマガミサマ



【7】鯨歯工芸品



【8】帆船模型

これらの広報画像はデータにて提供可能です。
ご入り用の画像があれば、総務課広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。
資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

特別展「復興を支える地域の文化——3.11から10年」 広報用画像利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

3組6枚 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

■ メール koho@minpaku.ac.jp または ■ FAX 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

- 写真使用に関するお願い、注意事項
 - ・クレジットには次のとおり記載してください。
 - 【2】～【4】 国立民族学博物館 提供
 - 【5】 和歌山県教育委員会 収蔵
 - 【6】 石巻市教育委員会 収蔵
 - 【7】 株式会社外房捕鯨 収蔵
 - 【8】 おしかホエールランド 収蔵
 - ・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
 - ・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- 本館の基本情報等の確認のため、メールまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
TEL：06-6878-8560（直通） FAX：06-6875-0401 メール：koho@minpaku.ac.jp